

【司 会】 それでは次は、岐阜女子大学教授、久世均が「飛騨高山匠の技デジタルアーカイブ」と題して、お話をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

「飛騨高山匠の技

デジタルアーカイブについて」

岐阜女子大学 教授

久 世 均



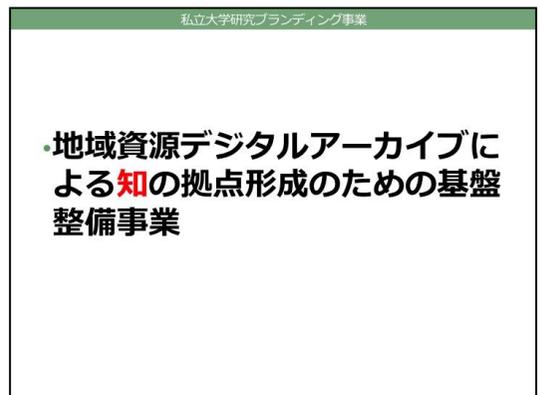
【久 世】

本年度から、岐阜女子大学は文部科学省の私立大学研究ブランディング事業というのに採択されました。これは5年間の事業なのですが、**「地域資源デジタルアーカイブによる知の拠点形成のための基盤整備事業」**というテーマで5年間やることになりました。この事業の中の一つとして、今回、この「デジタルアーカイブin高山」を開催させていただきました。

ここではデジタルアーカイブというお話をさせていただきます。

デジタルアーカイブというと、いわゆる写真を撮って、今お手元にございますような形の冊子をつくっていく、またはWebをつくっていくというのがよく言われるデジタルアーカイブというふうにお考えになる方が多いと思うのですが、2000年ぐらいのところでデジタルアーカイブというのが、一つのブームになりました。

2000年に日本全国でデジタルアーカイブということが行われたのですが、今現在遡って見てみると、そこでアーカイブされたものというのは現在全然残っていないん



です。例えば、Webでつくったとしても、そのWebは全然残っていない。それから、Webを制作したときに撮影した静止画や動画も残っていないというようなのが現実です。

そこで、私どもがデジタルアーカイブということを考えたときに、その2000年のときのデジタルアーカイブの手法ではだめだろうということで、ここに知の増殖型サイクルというふうに書いてございますけれども、この新しいデジタルアーカイブすることによって、新しい知を創造させる仕組みをつくっていかないと、アーカイブというのはこれから広がっていかないのであるかというふうに考えています。

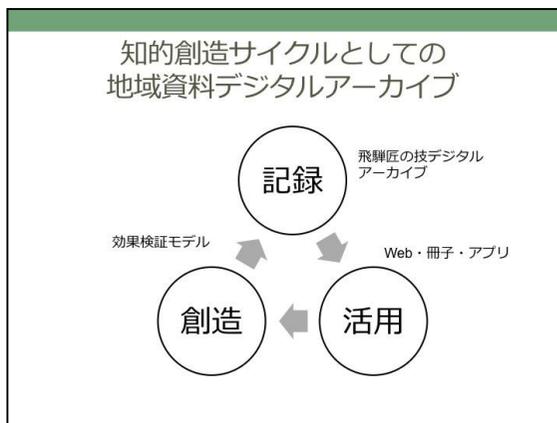
例えば、デジタルアーカイブというのは、この冊子をつくるということだけではなくて、またはWebをつくるということだけではなくて、これから記録をとったものを100年残すと、そういうふうに考えていただくと、アーカイブというものの意味がわかるのではないかと思います。

私ども、この飛騨とは別に沖縄のデジタルアーカイブの研究もしています。そこで、例えば沖縄の首里城というのが大体2000年ぐらいに復元されたんですけども、その沖縄の首里城も復元をするというときに、戦争で焼失した以前の、いわゆる琉球王国のときのそのままの首里城を復元したいということを沖縄では考えました。

しかし、その時の資料の多くは戦争に

私立大学研究ブランディング事業

- ・事業の目的
 - ・知識基盤社会においてデジタルアーカイブを有効的に活用し、新たな知を創造するという本学独自の「**知の増殖型サイクル**」の手法により、地域課題に実践的な解決方法を確立するために、地域に開かれた**地域資源デジタルアーカイブ**による**知の拠点形成のための基盤整備**をする。
 - ・このことにより、**地域課題に主体的に取り組む人材を養成する大学として、伝統文化産業の振興と新たな観光資源の発掘並びにデジタルアーカイブ研究による**地方創成イノベーションの創出**を行う。**



私立大学研究ブランディング事業

- ・飛騨高山の匠の技デジタルアーカイブと伝統文化産業の振興
 - ①伝統文化産業（飛騨春慶・一位一刀彫等）を多視点でデジタルアーカイブし、**歴史的な視点を総合的にまとめ**、匠の“**こころ**”をオーラルヒストリー等により「**知の増殖型サイクル**」を構成し、これらの一部を**海外へ発信**することにより伝統文化産業の振興を図る。
 - ②伝統文化産業における匠の技とその歴史的な背景をまとめてデジタルアーカイブ化することで、**伝統文化産業の理解と継承が容易になる**。さらに、継承の過程で生まれた**新知見**を「**知の増殖型サイクル**」で取り込み、その利活用によって**地域社会の振興を支援**できる。

よって焼失しておりました。実はそのときに一番、首里城の復元で役に立ったというのが、よくいわれる鎌倉芳太郎の写真なんですね。それが今から100年前に撮った写真が、その復元の唯一の根拠になったんですね。

このように、今、この飛騨高山の匠の技というものをデジタルアーカイブするということは、100年後にこれが役に立つようなものをつくっていこうというのが、実は私どもの目的と考えているわけです。

先ほどのいわゆる首里城の復元の鎌倉芳太郎のように、そのときに非常に有効になるような、新たな価値が出てくるような、そういうものをデジタルアーカイブで実現しようということを考えています。

知識基盤社会ということが、現在の社会の中で言われいますけれども、一体、知識の基盤になるものは何なのかということを考えていったときに、もちろん大学であったり、または県なり市町村の図書館というのが、実は知識の基盤になるものをつくっていくべきなんですが、現状では大学も知識の基盤になるものをつくって提供していくということはなかなか少ないというのが現状です。

そういう意味においては、今回、知識基盤社会の基盤になるものをつくっていこうというのが、今回のブランディング事業の中での一つの動機になってます。

また、現在、社会の中では、例えばブックオフとか、またはメルカリとかというのを見ていくと、いわゆるいろんな物の循環というのがどんどん進んできているということは、皆さんも御承知かと思います。私どもは、これからは、知そのものが循環型の社会になっていくと考えています。今までのようなフローの、いわゆるどんどん情報をつくって行って、どんどん流し込んでいくという、そういう社会の中から、ストック、すなわちきちとした確かなものをきちっと記録をとって、それを循環できるような仕組みをつくっていくということが、これからのアーカイブの中での一つの姿ではないかというふうに考えているわけです。

もう一つ、地方創生イノベーションの創出というふうに書かれています。地域にはいろんな課題を抱えているわけですね。今回の匠の技という点においては、例えば伝統文化産業というものは持続可能にしていくのがなかなか難しいという課題が存在しています。そういうものを持続可能にしていく人材の養成というのも一つの地域の課題として上げられてきているわけですね。

そんなときに、何か一つ価値というもの、新たな価値というものを創造していかないと、そういうものを持続可能にしていくことができないのではないかと考えているわけです。

今回、この飛騨の匠の技のデジタルアーカイブというようなものの中で、ポイントとしては、歴史的な視点というものを総合的にまとめるということをやっ

ていこうということを考えています。それと同時に、これを海外に発信するというようなことも今後考えていきたいということを思っています。

今、まだこのアーカイブは昨年度から始まったわけですが、まだ十分行われていませんので、まだ途中ということですが、今年度から5年間かけて、このアーカイブを進めていきたいというふうに考えています。

やることは、こんな、今やっているようなことを行っているわけですが、例えば今回、飛騨産業さんの御協力を得ながら、いわゆる木工の一つの家具ですね。こういうものをつかっていくプロセスを実は記録としてとらせていただいています。これも、私どもは一つ考えがございまして、今まではどちらかというとデジタルアーカイブというのは結果をアーカイブすることが非常に中心だったんですね。しかし、新しいものをつくり出すということを考えていくと、いわゆるプロセスをアーカイブすることが多分必要になってくるのではないかとということで、極力、プロセスをアーカイブしようということで、先ほどの飛騨の一位一刀彫のほうも、つくっていただいているところを実は多方向でビデオを撮って記録をしていく。この飛騨の春慶もそうですけれども、そのつくっている、そういうものの記録をとっていこうというようなことで、今進めているというような状況です。

今後は、この木工の技であったり、そのほかのものも今、総合的につくり込んでアーカイブしていこうというようなことで、またそれも高山市内だけではなくて、飛騨地区だけではなくて、奈良の地区、奈良県であったり、そういうようなものも含めた形で今、撮影をしていきたいというふうに考えています。

飛騨高山匠の技デジタルアーカイブ (飛騨産業株式会社)

【目的】 飛騨高山における匠の技を後世に語り継いでいくためのデジタルアーカイブを開発する。
 ◎飛騨に居づく匠の技を、日本で始めて総合的にデジタルアーカイブし、匠の技を後世に残す
 ◎飛騨高山の地で、育み受け継がれてきた伝統木工技術による「曲げ木」等の匠の技の伝承

現代の匠の技 (飛騨産業株式会社)

工程	工程	工程	工程	工程	工程	工程	工程	工程	工程
1. 材料の選定	2. 材料の加工	3. 材料の乾燥	4. 材料の組立	5. 材料の仕上げ	6. 材料の塗装	7. 材料の梱包	8. 材料の出荷	9. 材料の在庫	10. 材料の廃棄
1. 材料の選定	2. 材料の加工	3. 材料の乾燥	4. 材料の組立	5. 材料の仕上げ	6. 材料の塗装	7. 材料の梱包	8. 材料の出荷	9. 材料の在庫	10. 材料の廃棄

撮影のポイント

撮影時間

◆飛騨の匠のオーラルヒストリー

これを今、どういう形で展開していこうかということで、一つはWebをつくっております。皆さんの資料の中にQRコードが、先ほどの冊子の中に、各それぞれのところに実はございます。QRコードを携帯で読み込んでいただきますとWebが出てまいります。今後その中に動画や、もっとたくさんの写真というものをつけていきたいと考えています。

そのほかに、もう一つ、タブレットの教材も今つくり込んでおります。今タブレットのアプリケーションというような形で、一つの写真も、それからこの中に動画も入れ込んでいこうという形に今しております。これが動画で、こんな形で動画を入れていこうという形で、今つくり込んでいます。

もう一つ、実際にこれをアーカイブするというを考えていきますと、一つずつの情報の中にメタ情報をつけていかなければいけないということになっています。今、メタ情報の項目を設定して、それからメタ情報をつけて、そして100年残すというようなことを今この中では考えて、100年後にきちっとした形で役に立つようなものを本学の中でつくっていききたいというふうに考えているということでございますね。

もう一つ、先ほどお話をしていたアーカイブで、知的創造モデルということを少し考えているわけですが、アーカイブというのは一つの記録をとっているわけですが、それをWebであったり、冊子であったり、アプリであったりという

ような形で活用できるような形にしていくと。そういうものから、もう一つ新しいものを創造するという行っていくと考えています。

そのためには、一つの新しいこと、評価というものを少し提案していかなければいけないだろうというようなことで、例えば公共財としての価値や、文化財としての価値というものをもう少し強調していきたいというふうに考えているわけです。

例えば、歴史資料というような形の中で、1方向だけではなくて一つのサイクルにな

国分寺三重塔



住所	高山市総持町1-83
位置情報	
説明	<p>飛騨国分寺（ひだこくぶんじ）は、岐阜県高山市にある歴史山頂高野の寺院である。山頂に国分山（頂上は字がなし）あり。</p> <p>塔は天平時代七重塔で、西暦元年（854）に再建されたのは五重塔。近世に聖元和元年（1615）に五重塔を再建</p> <p>天和年中（1681～1683）に五重を三層にしたが寛政三年（1679）の別荘で御願、文政三年（1820）に建てたのが今の三層塔</p>
歴史	<p>741年（天平13年）、聖武天皇により国分寺建立の詔が降せられ、757年（天平神龜年）頃、行願によって建立されたという。</p> <p>819年（弘仁10年）、火災で焼失。延和6年（906年）ごろ、再建される。室町時代に本塔が再建されるが、詳しい時期は不明である。七重塔（第三層塔）に有蓋塔婆と山頂に御願する。元永永享に聖武天皇御願再建され、1585年（天正13年）、宗義長が御願御願の松島城を攻めたさいの兵火で焼失する。この塔は、再建と考えらる。</p> <p>1615年（元和元年）に三層塔が再建されるが、1791年（寛政3年）に幕閣前で御願、1820年（文政3年）再建されたのが現在の塔である。</p> <p>1865年（元治3年）、飛騨が不逞となり、高山山頂が取り壊され、一部は飛騨国分寺に移築され、遺構などに利用される。</p>

るような形のことを今回の事業の中でできればというふうに考えております。

これからデジタルアーカイブを推進していくために、人材の養成というのが非常に重要だと考えております。本学はこの人材の養成というのが一つの使命としてあるのではないかと考えています。

このデジタルアーカイブは国のほうで、このデジタルアーカイブ整備基本法（仮称）をつくろうとしておりますので、またこれからデジタルアーカイブというのが一つの大きな節目に多分なってくるだろうというふうに考えています。

このデジタルアーカイブをするというのは、地域のアーカイブはやっぱり地域で行うというのが原則だろうというふうに考えております。そのために、地域で、そのデジタルアーカイブをできる専門家（そういう方を私たちはデジタルアーキビストというふうに呼んでおりますけれども）の養成をしていきたいと考えています。

【司 会】 久世先生、飛騨の匠とそれから岐阜女子大学におけますデジタルアーカイブとのかかわりについてのお話、ありがとうございました。